

## 令和4年度進路課通信ラスト号

今年度の共通テスト・前後期試験が終了し、令和4年度の受験もひと段落を見せつつある。その中でも個人的に印象深い出来事は、共通テスト「世界史B」の問題における誤植だ。(個人的な話で申し訳ないと思う。)中国でかつて行われていた官吏任用試験「科挙」が「科拳」と誤植され、SNS上で試験終了後からお祭り騒ぎとなっていた。これほど人々の関心を引く理由は面白いからというだけでなく、「大学入試」が人々に与える影響が大きいという認識に先立つがゆえのものではないだろうか。

日本の大学入試もこの科挙と似ている部分があるのではないかと思う。

科挙とは「(試験)科目によって(官僚を)選挙」という語源を持ち、600年頃(中国隋王朝)から1900年頃(中国清王朝)まで行われていた官僚を登用するための試験である。数回の試験に合格することで成功の道が拓けた。彼らにとってまさしく人生の岐路であり、国家としては優秀な人材確保のための機会であった。

大学入学共通テストで解答時間が1分短いということからの再試験や上記で挙げた誤植からの盛り上がり、共通テスト・前後期試験に関する報道などからも、どれだけ大学入試が影響力のある試験なのかが分かる。志望大学合格を掲げた高校生らはそれまでの積み重ねを信じ、「5教科7科目(6教科8科目)の試験でよい結果を挙げよう」と奮起する。そしてまた各大学は優秀な人材確保のために、各校で求める人物像を押し図ろうとして問題作成に工夫を施す。まさしく大学入試は「科挙」である。(くだらない話ですが、「拳を握り、5教科7科目(6教科7科目)」と戦う決意を固めるってことで「科拳」もいいなと思う…。)

## 思考力・判断力・表現力

ところが、知識偏重型の弊害が叫ばれるようになってから、知識を詰め込んだ人物を評価するシステムからの変化が迫られることになった。そこで、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱(図1)からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことが至上命題とされるようになった。(バランスよく育てると考えるより「知識及び技能」を土台とし、「思考力・判断力・表現力など」を伸ばしていく(図2)と考える方がしっくりきそう…。)

推薦入試においては人物像を見極められるとともに、高校時代での諸活動への関りや大学入学への熱意が試される。また上記の力は共通テストでも試されている。

各教科の先生方が口を酸っぱくして言っていることをここでも繰り返し述べるが、教科で得た「知識」を活かして「思考・判断」して問題に取り組まなければ高得点を狙うことは難しい。国公立大学を目指すうえでは共通テストを避けて通ることは厳しい、つまり、「思考力・判断力・表現力など」を軽視することはできないということである。普段の予習・復習・授業・定期テスト・模

試での取り組みはどうであろうか、様々な力を培うための時間を無駄にしていないだろうか。

先生方が出題する問題や課題には、それぞれ意味を持っているはず。どんな力を身につけさせるためのものなのか考えて課題や定期考査に臨んでみるのもいいかもしれない。

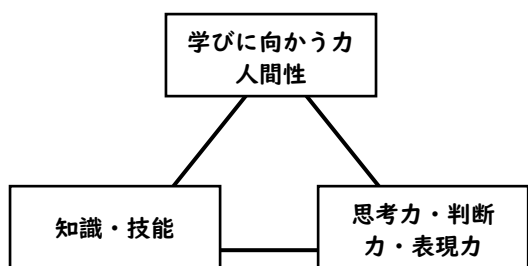


図1

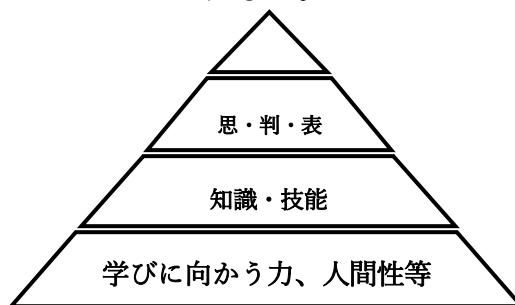
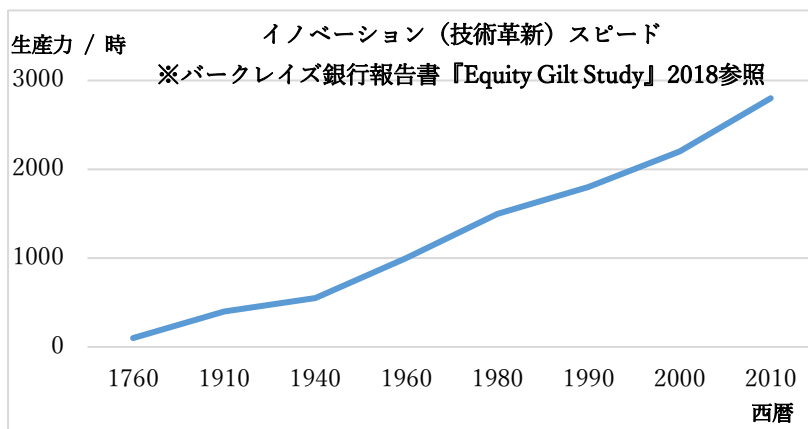


図2

## 「世界」にはばたけ!

産業といえば農業しかなく、人材といえば三百年の間、読書階級であった旧士族しかなかった。明治維新によって、日本人ははじめて近代的な「国家」というものをもった。誰もが「国民」になった。……社会のどういう階層のどういう家の子でも、ある一定の資格を取るために必要な記憶力と根気さえあれば、博士にも官吏にも軍人にも教師にもなりえた。(NHKドラマ『坂の上の雲』冒頭ナレーションより)

徳川幕府の下の「民衆」は明治維新・対外戦争により日本「国民」として成長した。そして彼らの立身出世のための身近な道具こそが「知識・技能」であった。しかし現代において、明治維新以来の時代の大きな転換点が到来している気がする。「知識・技能」さえ有れば成功する世ではなくなりつつあり、 $+\alpha$ の要素こそが成功のカギだと思われる。



左図について

技術革新による生産性の向上について

①産業革命を達成した 1760 年時における、1 時間当たりの生産力を 100 と設定

②2010 年時においては 1760 年時における 30 倍の生産力を実現

今後の社会はどうなる?今の仕事は 30 年後にはあるのか?どう生き抜く?

来る技術革新・グローバル化社会に対応するために、私たちは「(仮称)世界人」となる必要に迫られている。多種多様な民族・言語・宗教・文化・歴史など様々なバックボーンを持つ人々と向かい合い、イノベーションと向かい合い、不透明な未来と向かい合う。自分の持つ「知識・技能」を基礎とした「思考力・判断力・表現力」で、他者との「議論・討論」を行う、これこそが新たな「世界人」として必要な要素ではないだろうか。これこそが、新時代を切り拓いて進むためのカギであると信じる。

## 感謝をこめて

1 年間にわたり進路課通信をお読みいただきありがとうございました。特に読んでほしい進路課通信過去回をおすすめしようと思いましたが、どれも面白く勉強になるものばかりで困りました。皆さんの好きなのは第何号ですか?(個人的には 3 号・22 号が好きです。来年度も楽しみです。)

最後に、生徒・職員・卒業生などの皆さまからは様々な形でのご声援・ご協力を頂戴しました。本当にありがとうございました。